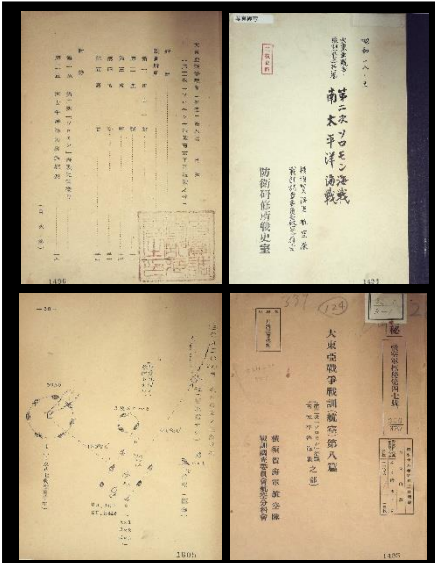


平成 30 年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎月一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

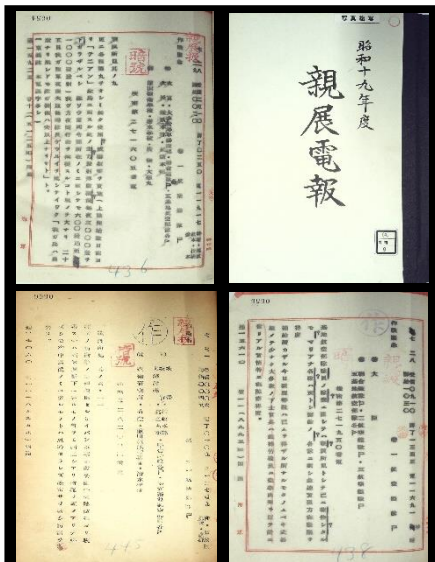
《 ^{かくだかくじ} 角田覚治 1890～1944 年 》

—新潟県出身の海軍中将—



戦訓 第二次ソロモン海戦・南太平洋海戦(登録番号：①中央-戦訓I-20)

角田覚治中将は、明治 44 年海軍兵学校(39 期)、大正 14 年海軍大学校(甲種 23 期)を卒業しました。昭和 15 年第三航空戦隊司令官着任以降、航空部隊指揮官を歴任、開戦後、第二航空戦隊司令官として、17 年 10 月ソロモン海域で行われた南太平洋海戦に参加します。その際、米艦載機による攻撃で空母「翔鶴」「瑞鳳」が被弾、機動部隊本隊が敵勢力圏外に待避したため、南雲中将より一時指揮を委譲され、敵残存空母の撃滅を命ぜられます。角田乗艦の空母「隼鷹」は、最大速度で米機動部隊に突進、使用し得る零戦 6 機、艦爆 4 機からなる第三次攻撃隊を発進させ、米空母「ホーネット」を大破、航行不能にしました。続いて空母「瑞鶴」も指揮、残敵殲滅のため追撃に着手しました。この史料は、18 年 5 月、横須賀海軍航空隊が、南太平洋海戦の経過、戦訓などをまとめたもので、当時、本海戦をどう分析していたかが読取れます。



昭和 19 年度 親展電報 (登録番号：④艦船・陸上部隊-電報-9)

角田は、昭和 17 年 11 月、中将に昇進、翌年 7 月、基地航空部隊の第一航空艦隊司令長官に就任し、19 年 2 月 21 日、テニアン島に着任、将旗を掲げました。第一航空艦隊は、6 月の「あ」号作戦(マリアナ沖海戦)への貢献を期待されたものの、戦力と搭乗員の練度の不足、甚大な被害などで苦戦を強いられます。米軍は、7 月 24 日、テニアン島に上陸しました。角田は、陸軍守備隊とともに戦いますが、島南部カリリナス高地に追いつめられ、31 日、「今ヨリ全軍ヲ率々突撃セントス」と決別電を発し、8 月 2 日頃、最後の突撃で手榴弾を手に壕を出たといわれます。この史料は、海軍第一線部隊が発した電報を綴ったものですが、第一航空艦隊のテニアン島での地上戦の戦訓所見(その 1～11(一部欠))、要望、功績報告などが含まれています。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)

外線：03-3260-3011

FAX：03-3260-3034

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp>